

温暖化で増加が懸念されるイネ紋枯病の効率的な防除技術

(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター、
宮城県古川農業試験場



高温多湿を好むイネ紋枯(もんがれ)病は、温暖化により将来の被害が増加することが予測されました。そこで、イネ紋枯病を効果的・効率的に抑えるための農薬使用の判断基準を設定しました。この基準をもとに実際に農薬を使用して、イネ紋枯病の被害を抑えるのに効果的であることを確認しました。

1

イネ紋枯病は地球温暖化により増加する



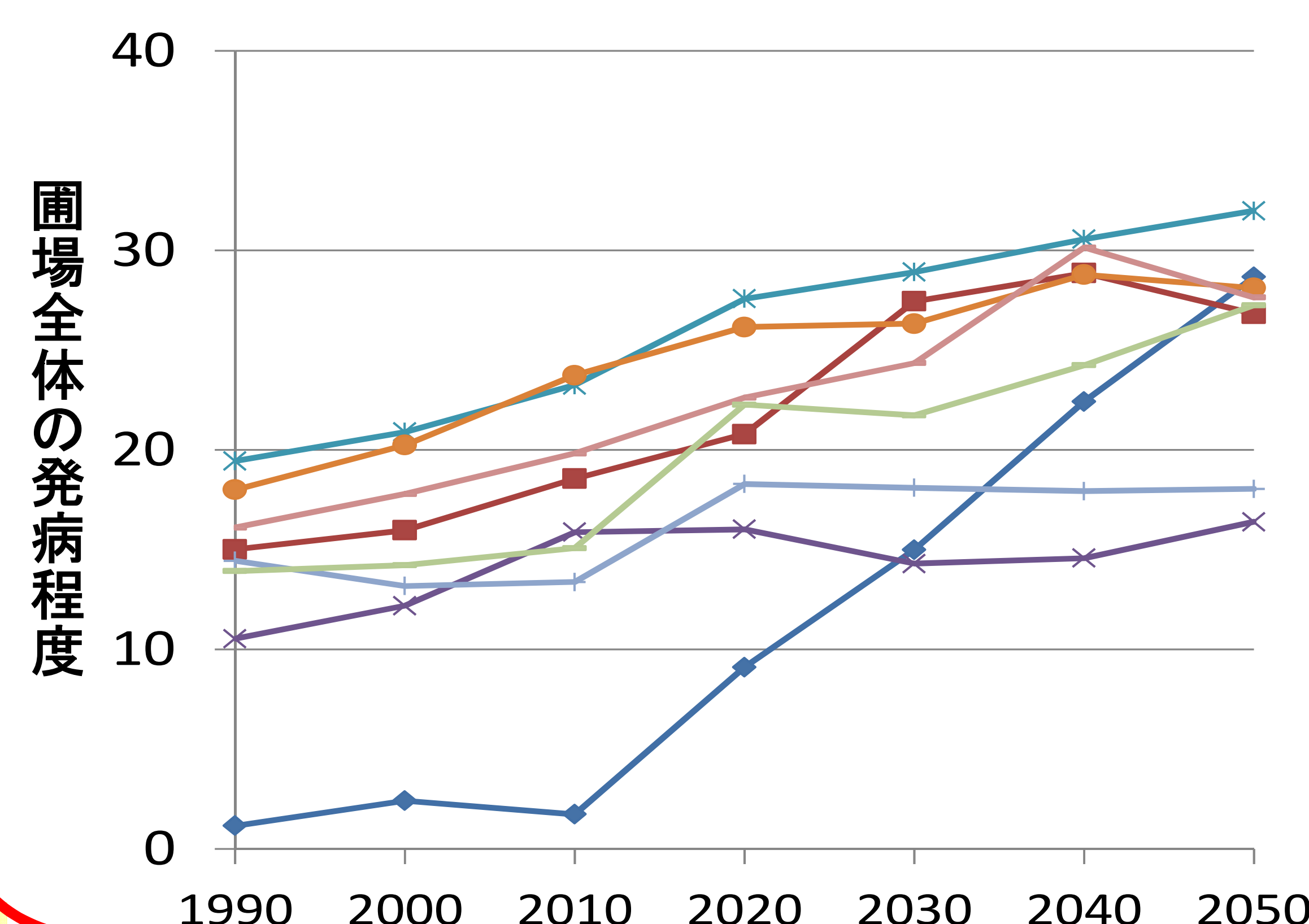
イネ紋枯病が発生すると

- ・玄米の収量と品質が低下してしまいます。
- ・平成25年の被害は作付面積の約16%。
- ・高温多湿を好みます。

将来、イネ紋枯病が全国で増加すると予測されました。

効果的・効率的に抑える方法が必要です。

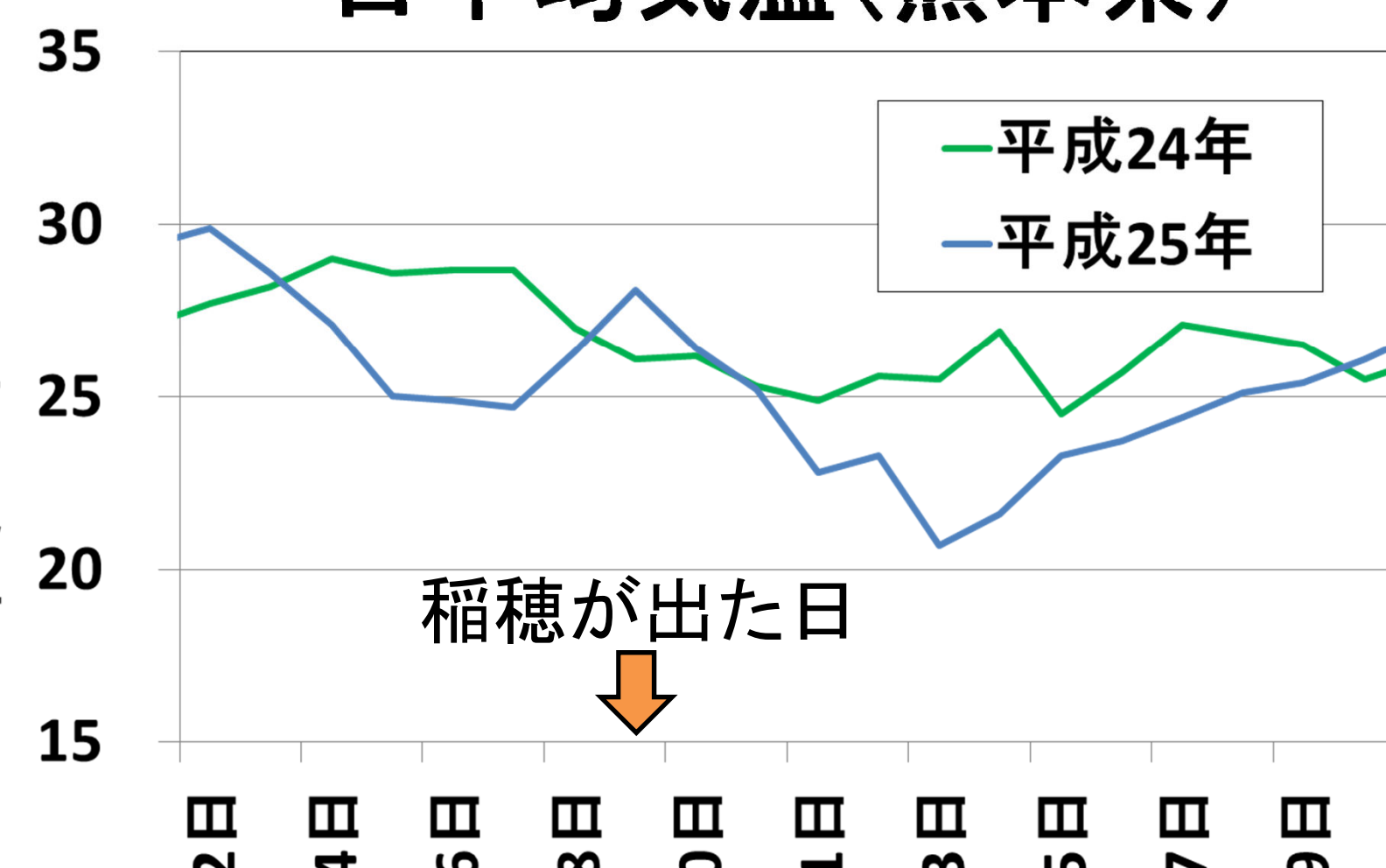
イネ紋枯病の各地域における発生増加予測



2

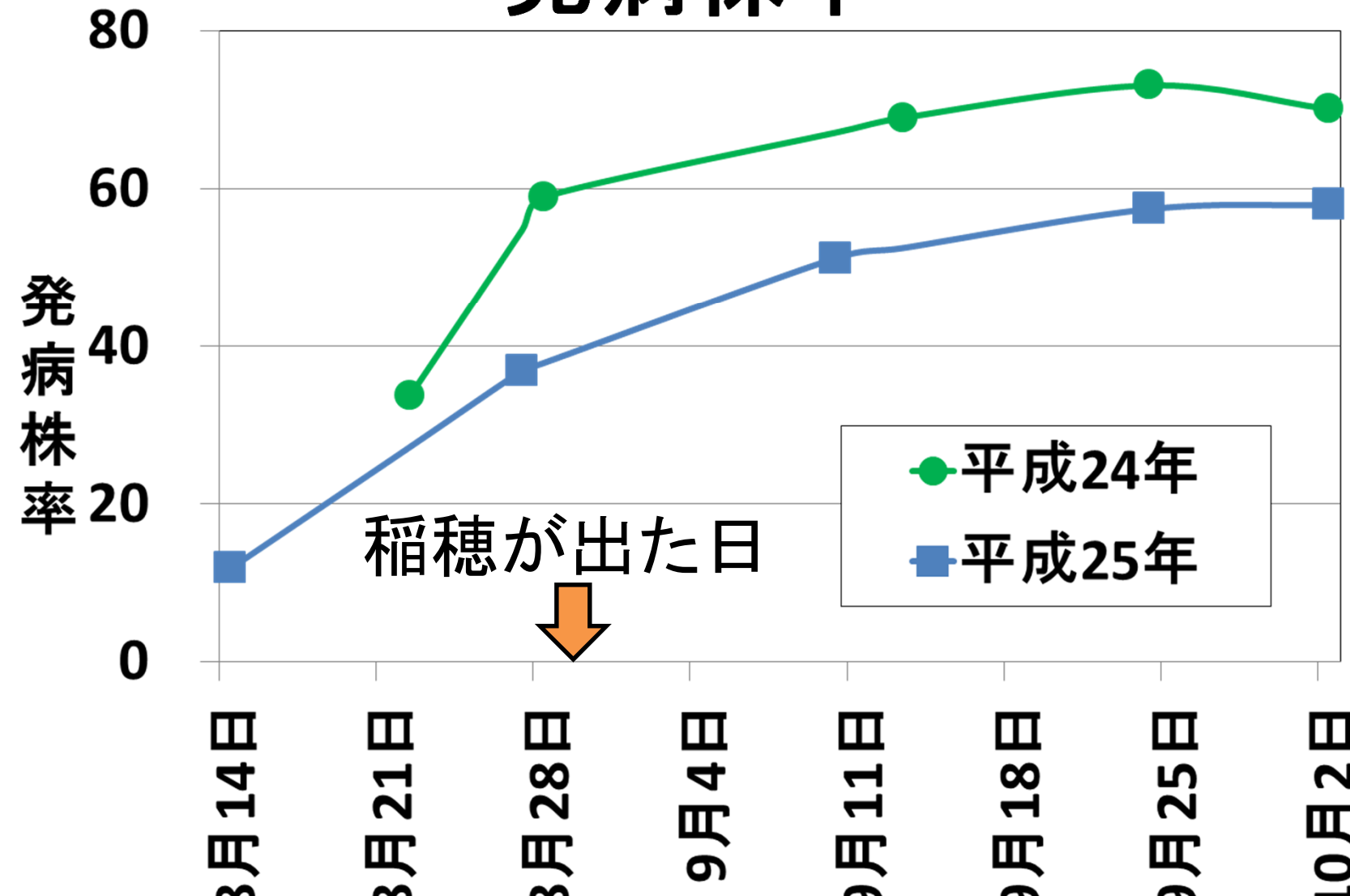
イネ紋枯病の発生量変動のポイント

日平均気温(熊本県)



イネ紋枯病の発生源
(イネ上に形成された菌核)

発病株率

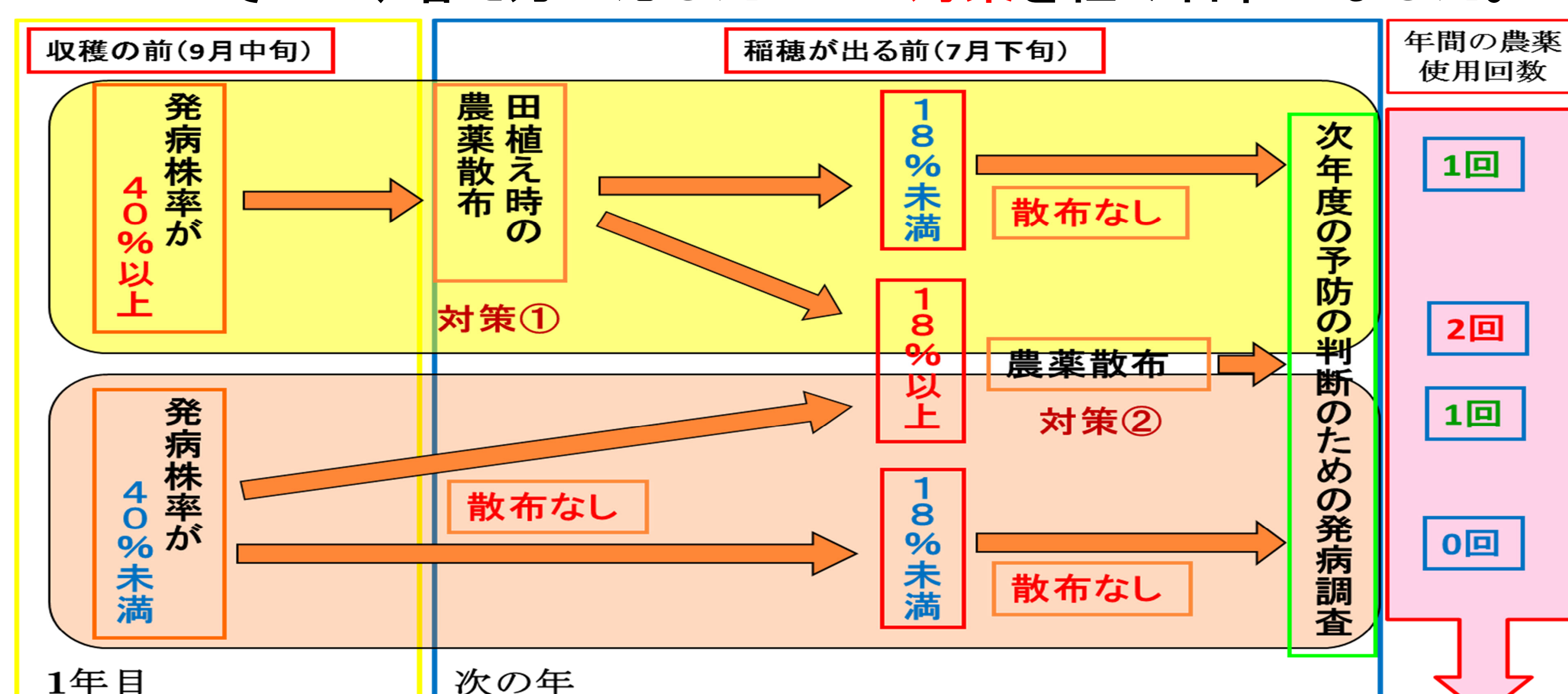


稲穂の出る頃の高温が発生を増加させます。

3

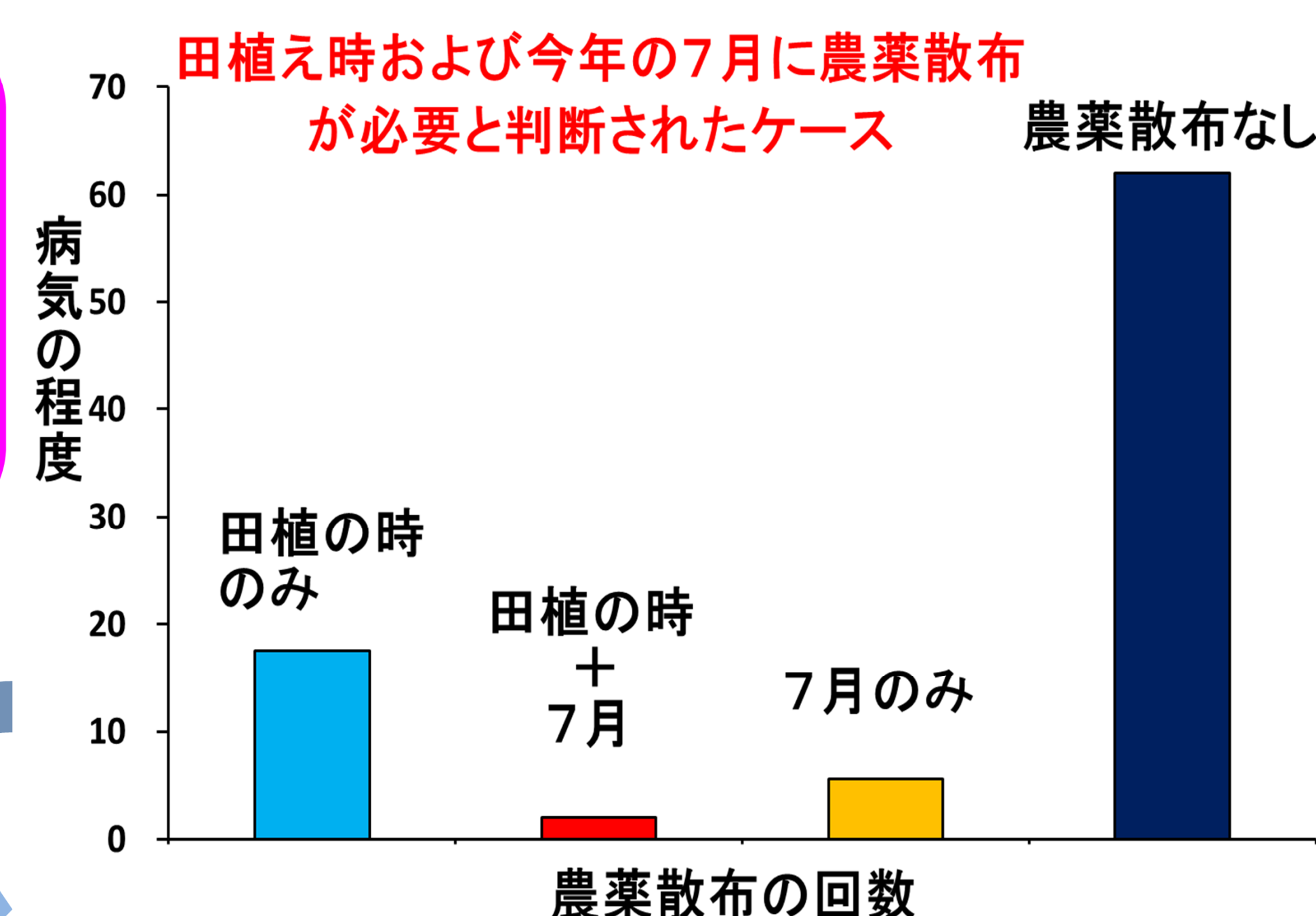
イネ紋枯病を効率的に抑える方法の提案

イネ紋枯病は毎年少しずつ増えてくる病気です。そこで、増え方に応じた2つの対策を組み合わせました。



発生量に応じて unnecessary 農薬散布の削減が可能！

- ①前年の調査から田植え前の農薬散布を判断します。
- ②稲穂が出る前の調査から追加の農薬散布を判断します。



病気の発生状況に合わせた農薬使用が可能になりました。